

第69回定時総会の報告 第68回現代歌人協会賞授賞式報告

森川多佳子

二〇二四年六月二十七日(木)、東京のアルカディア市ヶ谷において、二〇二四年度第69回定時総会、第68回現代歌人協会賞授賞式が行われた。

定時総会では、栗木京子理事長が、座の文芸である短歌には一堂

現代歌人協会会報 180

に会して味わい論じあうことが大切で、オンラインも含め、人と人との交流をさらに深める企画を練っていきたくと挨拶した。

次に司会の斉藤光悦より、会員八百九十五名のうち、出席者四十八名、委任状提出四百九十三名で定款十三条に定める定足数に達していることが確認され、総会の成立が報告された。

定款第十六条に従い、議長を栗木理事長が務め、二〇二三年度の事業報告を行った。定時総会・現代歌人協会賞授賞式は対面で催す

ことができた、全国短歌大会の応募は千六百九十首、公開講座全六回は配信を含む聴講者のべ七百六十一名と盛況で、その内容は「歌壇」に連載された、また、ネットプリント夏)の参加者は三百五十名、Xを通じての放送(現代歌人協会スペース)には四百四十名が参加した、出張イベント(現代短歌フェスティバル「奈良」)は参加者百三十名、坂井修一の講演「コモンズと短歌」は「短歌研究」7月号に掲載、現代短歌大賞特別賞は「心の花」が受賞、会報発行の時期の変更、とそれぞれ報告された。

続いて、加藤英彦による収支報告があり、木村雅子監事が今後の展望にも触れた監査報告を行い、それぞれ承認された。

次に、二〇二四年度事業計画案が栗木理事長から示された。

公開講座の会場を四谷の「プラザエフ」に変更したこと、八月に一般の人も聴取できるオンライン上の集いをXの「スペース」を利用して企画していること、現代短歌大賞授賞式・忘年会はアルカディア市ヶ谷で行うこと、本年は会

員名簿が改定されることなど、それぞれ提起された。
引き続き加藤英彦より本年度予算案の説明があり、承認された。
会場からの発言としては、鶴飼康東より短歌の海外展開などについての提案があった。栗木は、翻訳事業なども検討していくと述べた。また、木村雅子、桑原正紀両監事の留任が承認され、高木佳子が本年度の新入会員三十七名を紹介して承認された。
議事終了後、第68回現代歌人協会賞の選考経過報告が吉川宏志選考委員長よりあった。受賞歌集は陸月都『Dance with the invisible』である。(詳細は二〇二四年七月発行の会報一七九号)
その後、授賞式と懇親会が行われ、はじめに栗木理事長が、刊行当初より反響を呼び、多くの読者の真摯な支持を得た歌集で、心情と調べが透明な骨格によって一首を立ち上がらせると述べた。
次に吉川が文語旧仮名を用いた柔軟な韻律が快く、透明な感情を求める作風が清新な美を生み出し、そこには過去の短歌への敬意がある。優れた新人の登場を心から喜びたいと祝した。
賞状・副賞の授与のち、選考委員の祝辞があり、駒田晶

子はその完成度が高く一冊の構成がよく練られており、見えない部分を実感させると述べた。中沢直人は新鮮なポエジーと発想のユニークさが特徴で、目に見えないものと時を刻む歌集であると語った。

花東贈呈に続く受賞者挨拶で陸月は、AIエンジニアとして、AIが心を作ること、心というものが人間を定義しなくなった時には、人間が身体を持って生きる現実こそが価値となること、五感で獲得した経験が人間の特権となることなどと述べた。そして、AIと人間、現実と虚構、真実と嘘の境目が曖昧な時代に、自分にとつての真実を短歌にこめていきたいと語った。

久々湊盈子の発声で乾杯し、相田奈緒、花山周子、富貴高司がスピーチ。理知と感性が高く香る新人を温かく言祝ぐ会となった。

現代歌人協会賞受賞者の陸月 都さん

現代歌人協会賞受賞者の陸月 都さん



現代歌人協会賞受賞者の陸月 都さん